

科目名	心理学						
科目名(英)	Psychology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	井上 慎司		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	心理学の歴史、心理学の研究法、感覚と知覚、記憶、知能、学習、感情の定義と分類について学習する。また、性格とパーソナリティ、発達、発達段階の定義と分類、ストレス、精神疾患、心の悩み、それぞれの心理療法の間観を学ぶことで、対人援助とは何か、医療従事者の心理、患者の心理について学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				記憶と学習のプロセスを説明することができる。-	
	○	○				人がどのようにして動機づけられるのか、そのプロセスを説明することができる。	
	○	○				人の心の動きに影響する対人的・社会的状況を説明することができる。	
	○	○				人の心の発達過程とその特徴、エリクソンの人間発達を用いて説明することができる。	
	○	○				治療過程における患者と治療者の心の動きの特徴を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:『心理学【カレッジ版】』 山村豊・高橋一公 医学書院 参考図書:『リエゾン・カンファレンス—リハビリテーション医療における心理的ケア』 乾吉佑 慶應義塾大学出版会『医療心理学実践の手引き—出会いと心理臨床』 乾吉佑 金剛出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	心理学:心とは何か、対人援助と心理学、心理学の歴史、心理学の研究法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	感覚と知覚:感覚、知覚とは、感覚の仕組みと働き、知覚の仕組みと働き			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	記憶:記憶のメカニズム、短期記憶と作業記憶、長期記憶と忘却			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	思考と知能:思考とは、言語とコミュニケーション、知能とは			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	学習:学習、古典的条件づけ、オペラント条件づけと学習理論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	動機づけ:感情とは、感情のメカニズム、動機づけの理論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	性格:性格とは、性格の理論、性格の測定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	社会と集団:社会的認知、対人関係と対人魅力、集団とリーダーシップ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	発達1:発達とは、各発達段階の捉え方、乳幼児期、児童期			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	発達2:青年期、成人期、アイデンティティ、中年期、高齢期			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	心理臨床1:心理臨床と臨床心理学、心の適応と不適応、精神疾患の分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	心理臨床2:心理療法とカウンセリング、各心理療法の基本的な想定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	医療と心理1:医療職と対人援助、対人援助の機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	医療と心理2:患者の心理特性、医療従事者の心理			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学知識が求められるのかをひとまず理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理学的な理解を深めることが望ましい。						

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	山本 昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に活用することができる。文章の入力に関して、5分間で200字以上(3級レベル)の文字入力ができる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。(5分間で200字3級レベル程度以上)	
	○	○	○			Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○			Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○			PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:情報リテラシー アプリ編 Word2016・Excel2016・PowerPoint2016 (FOM出版) 参考文献:医療従事者のための情報リテラシー (日経BP社)情報リテラシーパーフェクトブック (ウイネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、Windowsの基礎、入力速度チェック				入力練習・復習	
	2	Wordの基礎、文字入力、編集、保存				入力練習・復習	
	3	書式設定、画像、SmartArtグラフィック				入力練習・復習	
	4	表、ページ罫線、タブ				入力練習・復習	
	5	ワードアート、段組				入力練習・復習	
	6	Word復習テスト・他				入力練習・復習	
	7	Excelの基礎、文字・数値の入力、表作成				入力練習・復習	
	8	表作成、四則演算、関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN)				入力練習・復習	
	9	絶対参照、関数(COUNT,COUNTA,IF)				入力練習・復習	
	10	データ分析(並べ替え、オートフィルタ)、グラフ作成				入力練習・復習	
	11	Excel復習テスト・他				入力練習・復習	
	12	キーボード入力の記録会、PowerPointの基礎				入力練習・復習	
	13	スライドの作成、スライドの書式設定				入力練習・復習	
	14	画像等の挿入、画面切替え、アニメーション、リハーサル、資料の作成				入力練習・復習	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	○	○	◎	○		60%
	小テスト	○	○	◎	○		40%
履修上の注意							

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	御手洗 裕美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	英文読解に慣れるとともに、最新の医学情報に触れることで、医学への興味を高める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				英文の構造を理解し、内容を理解することができる	
	○	○				医療関連の基本語彙を理解することができる	
	○	○				トピックについて、自分の考えを述べるができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:やさしい医学英語 Introduction to Medical English 編集 青野淳子 執筆 青野淳子 Daniel P Considine						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	やさしい医学英語 Introduction : Chapter 1 : Cell, Organ and System			分からない英単語を調べておくこと		
	2	やさしい医学英語 Chapter 3 : Blood			分からない英単語を調べておくこと		
	3	やさしい医学英語 Chapter 7-1 : Nervous System			分からない英単語を調べておくこと		
	4	やさしい医学英語 Chapter 7-2 : Disorders of the Nervous System			分からない英単語を調べておくこと		
	5	やさしい医学英語 Chapter 8-1 : Musculoskeletal System			分からない英単語を調べておくこと		
	6	やさしい医学英語 Chapter 8-2 : Disorders of the Musculoskeletal System			分からない英単語を調べておくこと		
	7	やさしい医学英語 Chapter 9-1 : Skin and Sensory System			分からない英単語を調べておくこと		
	8	やさしい医学英語 Chapter 9-2 : Disorders of the Skin and Sensory System			分からない英単語を調べておくこと		
	9	やさしい医学英語 Chapter 11-1 : Endocrine System			分からない英単語を調べておくこと		
	10	やさしい医学英語 Chapter 11-2 : Disorders of the Endocrine System			分からない英単語を調べておくこと		
	11	PT OT リハビリテーション英会話①			分からない英単語を調べておくこと		
	12	PT OT リハビリテーション英会話②			分からない英単語を調べておくこと		
	13	PT OT リハビリテーション英会話③			分からない英単語を調べておくこと		
	14	PT OT リハビリテーション英会話④ まとめ			分からない英単語を調べておくこと		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	毎回、必ず予習をしてきてください。						

科目名	接遇講座						
科目名(英)	Skills for the Hospitality						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	徳島 欽子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	医療従事者としての正しい言葉使い、社会人としてのマナーを学び社会人基礎力向上を目標とする。また医療人としてチーム医療を取るためのコミュニケーション能力を獲得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					医療従事者として、正しいことば遣いを理解することができる。	
			○			医療従事者として、立ち振舞の基本と応用を実践することができる。	
	○					チーム医療の中でより良いコミュニケーションを取るためのマナーを理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:実社会で求められるビジネスマナー(専門教育出版)ノケア・コミュニケーション(ウイネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自己紹介 接遇の五原則			自己紹介の準備		
	2	言葉遣い 正しい敬語			教科書にて予習		
	3	言葉遣い 敬語の分類			教科書にて予習		
	4	言葉遣い 好ましい話し方			教科書にて復習		
	5	言葉遣い 敬語の総練習			教科書にて復習		
	6	立ち居振る舞いの基本と応用			教科書にて予習		
	7	立ち居振る舞いの基本と応用			教科書にて復習		
	8	執務の基本			教科書にて予習		
	9	チームワークとコミュニケーション 電話応対			教科書にて予習		
	10	チームワークとコミュニケーション 電話応対			教科書にて復習		
	11	よりよいチームワークのためのマナーとコミュニケーション			教科書にて予習		
	12	よりよいチームワークのためのマナーとコミュニケーション			教科書にて復習		
	13	マナー一般 冠婚葬祭			教科書にて予習		
	14	ビジネス文書 手紙の書き方			教科書にて予習		
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	レポート	◎	○		◎		20%
履修上の注意							

<b>科目名</b>	解剖学						
<b>科目名(英)</b>	Anatomy						
<b>単位数</b>	4	<b>時間数</b>	60時間	<b>担当者</b>	佐藤 敦子		
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	前期	<b>実務家教員 担当科目</b>	○		
<b>対象学科・学年</b>	作業療法学科 1年						
<b>授業概要</b>	人体の構造を機能と関連付けて学び、作業療法士になるための基礎学力をつけることを目的とする。						
<b>授業形式</b>	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
<b>学習目標 (到達目標)</b>	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					骨・関節・靭帯に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。	
	○					骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の位置や名称を理解できる。	
	○					循環器系における必要知識を理解できる。	
	○					呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌系における必要知識を理解できる。	
<b>テキスト・教材 参考図書</b>	教科書:1 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 渡辺正仁 (監修) 廣川書店 2. あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達雄 (訳) medical・サイエンス・インターナショナル社 参考文献:1. 日本人体解剖学 上・下巻 (第19版) 金子丑之助 (原著) 南山堂 2. ネット解剖学アトラス (第5版) 相澤貞和 (訳) 南江堂						
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	解剖とは、解剖学用語、細胞学			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	組織学概論(上皮組織、支持組織、神経系、神経系の発生)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	骨格系①:総論(骨の構造、骨の発生、骨のリモデリン)、頭蓋、顔面の骨			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	骨格系②:体幹の骨(脊柱、胸郭、肋骨)、四肢の骨(上肢骨、下肢骨)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	関節と靭帯①:総論(連結の種類、関節特殊装置、関節の分類)、頭蓋、脊柱、胸郭			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	関節と靭帯②:四肢(上肢・下肢)の関節			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	筋 系①:総論(筋の種類・形態・補助装置、筋線維の構造)、頭部・顔面の筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	筋 系②:舌・口蓋・咽頭・喉頭の筋、頸部の筋、体幹の主な筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	筋 系③:上肢・下肢の主な筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	循環器系①:血管の構造、心臓			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	循環器系②:動脈系、静脈系			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	循環器系③:胎児循環、リンパ管系 内臓学系①:呼吸系			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	内臓学系①:消化器系 内臓学系②:泌尿器系			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	内臓学系②:生殖器系 内臓学系③:人体の発生			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	内臓学系③:内分泌系 まとめ						
<b>評価方法</b>	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				100%
<b>履修上の注意</b>							

科目名	生理学						
科目名(英)	Physiology						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	坂口 博信		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社 ブルーバックス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	生理学序論 細胞と内部環境			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	神経系 興奮伝導、シナプス、神経回路			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	末梢神経系 脳神経、脊髄神経、自律神経			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	血液 酸 塩基平衡			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	生体防御 一免疫一			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	循環			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	呼吸			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	消化と吸収			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	栄養と代謝			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	腎臓と排泄			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	内分泌			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	性と生殖			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	筋の収縮Ⅰ 骨格筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	筋の収縮Ⅱ 心筋・平滑筋			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	運動学						
科目名(英)	Kinesiology						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	大内田 由美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	解剖学、生理学で学ぶ身体の構造と機能を踏まえた上で、特に運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。 また、各部の関節の運動に関与する筋について学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動に関する骨や筋の構造、筋収縮の機序を説明できる。	
	○	○				てこやモーメントといったバイオメカニクスについて説明できる。	
	○	○				各部の関節の運動に作用する筋の名称、起始、停止、支配神経を述べる事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)中村隆一, 齋藤宏:基礎運動学. 医歯薬出版株式会社 2)足立和隆 訳:よくわかる筋の機能解剖 第2版. メディカル・サイエンス・インターナショナル 3)配布資料 参考文献:1)佐藤達夫:あたらしい人体解剖学アトラス. メディカル・サイエンス・インターナショナル 2)Frank H Netter(相磯貞和訳):ネッター解剖学図譜. 丸善株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動学とは、身体運動の面と軸 重力と姿勢、基本的な静的姿勢				基礎運動学と配布資料を使用した復習	
	2	運動の表し方、各部の骨の構造と名称 各部の関節の構造と名称				復習テストの実施	
	3	骨格筋について				基礎運動学と配布資料を使用した復習	
	4	骨格筋について				復習テストの実施	
	5	バイオメカニクス				復習テストの実施	
	6	頸部・体幹の運動に関与する筋				復習テストの実施	
	7	股関節の運動に関与する筋				基礎運動学と配布資料を使用した復習	
	8	股関節・膝関節の運動に関与する筋				復習テストの実施	
	9	足関節・足部の運動に関与する筋、足のアーチ				復習テストの実施	
	10	肩甲帯・肩関節の運動に関与する筋 肩関節の運動に関与する筋				基礎運動学と配布資料を使用した復習	
	11	肩関節の運動に関与する筋 ローテーターカフ				復習テストの実施	
	12	肘関節・前腕・手関節の運動に関与する筋 前腕・手関節の運動に関与する筋				復習テストの実施	
	13	手関節・手指の運動に関与する筋 手指の運動に関与する筋				復習テストの実施	
	14	手内在筋(骨間筋・虫様筋) 手内在筋(母指球筋・小指球筋)				復習テストの実施	
	15	まとめ				基礎運動学と配布資料を使用した復習 Webテストの実施	
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎					70%
	小テスト	◎					30%
履修上の注意							

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)	Clinical Medicine						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や基本的な診断・治療について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学概論／日野原重明／医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	医学の歴史と体系1: 医学の起源、古代の医学			教科書の予習しておく。		
	2	医学の歴史と体系2: 中世の医学、近世の医学			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	医学の歴史と体系3: 20世紀以降の医学			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	医学の歴史と体系4: 我が国における医学の発達のすがた			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	医学の倫理1: 医学概論で何を学ぶか、医学とは何か			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	医学の倫理2: 人間の生命を考える、病気と医学			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	医学の倫理3: 医学とリハビリの実践のために、死への対応			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	生体の恒常性と健康: 健康・病気・医学の体系			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	疾病構造の変化と医学の変貌: 新しい医療システム			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	病気と診断学1: 病気の原因			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	病気と診断学2: 病気による身体の変化			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	病気と診断学3: 病気の診断			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	病気と治療学: 病気の治療とリハビリテーション			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	救急医療・疾病予防: 病気の予防			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							



科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)	Introduction to Rehabilitation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹中 祐二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	重症心身障害児施設において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	リハビリテーションの概略、分野や領域を知ることによってリハビリテーションの意義を理解する。またICFを理解し、障がいの分類、リハビリテーションのアプローチについて学ぶ。さらに代表的な疾患のリハビリテーションについて知る。OTとしての関わりの範囲や内容等について知る						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				リハビリテーションの理念、歴史について説明できる	
	○	○				リハビリテーションの分野、領域について説明できる	
	○	○				国際障害分類と国際生活機能分類について説明できる	
	○	○				各専門職と役割、チームアプローチについて説明できる	
○	○				リハビリテーションの流れについて説明できる		
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学生・コメディカルのための手引書「リハビリテーション総論改訂 第3版」永井書店 参考文献:PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論-要点整理と用語解説(診断と治療社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	リハビリテーションの定義				教科書の予習をしておく。	
	2	リハビリテーションの分野				教科書の予習をしておく。	
	3	廃用症候群				教科書の予習をしておく。	
	4	国際障害分類と国際生活機能分類				教科書の予習をしておく。	
	5	リハビリテーションの職種				教科書の予習をしておく。	
	6	評価とリハビリテーションの流れ				教科書の予習をしておく。	
	7	リハビリテーションの流れ、EBM				教科書の予習をしておく。	
	8	補装具				教科書の予習をしておく。	
	9	関係法規、地域リハビリテーション				教科書の予習をしておく。	
	10	疾患別リハビリテーション 脳血管障害				教科書の予習をしておく。	
	11	疾患別リハビリテーション 神経・筋疾患				教科書の予習をしておく。	
	12	疾患別リハビリテーション 関節リウマチ				教科書の予習をしておく。	
	13	疾患別リハビリテーション 脊髄損傷				教科書の予習をしておく。	
	14	疾患別リハビリテーション 脳性まひ				教科書の予習をしておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	作業療法理論						
科目名(英)	Occupational Therapy Theory						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	青山 克実		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	自分自身の作業を振り返りながら作業の多面性、意味や形態、機能について学習する。・作業療法の基礎理論である人間作業モデルおよび作業遂行と結びつきのカナダモデルの概要と基本的概念を学習し、自分自身の成長や発達を振り返る。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			作業とは何か?日本作業療法士協会の定義を用いて、その多面性を説明できる。		
	○	○			人間作業モデルにおける作業の分類を列挙できる。		
	○	○			吉川らの「作業の意味を捉えるための枠組み」を列挙できる。		
	○	○			人間作業モデルの概念を通して自分の状態を説明できる。		
	○	○			自分が作業を通してどのように発達してきたのか、人間作業モデルの原理を使って説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川ひろみ:作業科学入門「作業」って何だろう 第2版 作業科学入門. 医歯薬出版, 2017.</li> <li>・Kielhofnor G著(山田孝監訳):作業療法の理論 原著第4版. 医学書院2014</li> <li>・その他、オリジナル資料配布</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンス、作業とは…作業科学、作業の定義、分類、多面性、3つの多側面(講義・演習)				Classi小テストの実施、即諸課題レポート作成(授業最終日まで提出)	
	2	作業の多面性演習、作業の意味①～引き起こされる感情、目的or手段、世界とのつながり				Classi小テストの実施 作業の多面性に関するレポート作成	
	3	作業の意味①～引き起こされる感情、目的or手段、世界とのつながり				Classi小テストの実施	
	4	作業の意味②～自分らしさ、構造化と類型化:作業バランス演習(SAOB)				Classi小テストの実施 作業バランスに関するレポート作成	
	5	作業の意味③～健康との関連性(作業の機能)と社会的意味				Classi小テストの実施	
	6	症例を通じた作業の意味・形態・機能の演習【臨床実習症例発表を通して】				Classi小テストの実施	
	7	作業科学の諸概念～作業の階層性、作業的公正とインクルージョン、トランザクション				Classi小テストの実施	
	8	MindMap演習【老川】作業プロフィール演習				自分の作業プロフィールレポート作成	
	9	理論の階層性とコラボレーション 人間作業モデル① 歴史的背景、基本的概念、人間作業のダイナミクス				Classi小テストの実施	
	10	人間作業モデル② 意志				Classi小テストの実施	
	11	人間作業モデル③ 習慣化				Classi小テストの実施	
	12	人間作業モデル④ 遂行能力と環境、行為の諸次元				Classi小テストの実施	
	13	人間作業モデル⑤ 作業の変化と発達				Classi小テストの実施	
	14	作業遂行と結びつきのカナダモデル【老川】					
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	小テスト	○	○		○		30%
履修上の注意							

科目名	基礎作業学実習 I						
科目名(英)	Occupation Based Overview I						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	早川 由加里		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	介護老人保健施設において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	作業療法士が治療として作業活動を用いる際に必要とする、作業の基本的な知識・技術を学ぶ。主に実習形式で作業を体験することで、自分自身そして周囲環境への理解も深めながら、最終的には応用して用いることが出来る様になることを目標とする。						
授業形式	講義: Δ	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:Δ		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			作業療法で用いる様々な作業の基本的な知識と技術について説明できる。	
	○	○	○			各作業を遂行する上で必要な身体的および心理的機能を説明できる。	
	○	○				各作業を遂行する上での周囲の人的および物理的環境との関係を説明できる。	
	○	○		○		グループワークを通して自分自身についての理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル資料 長崎重信 監修:作業学 改訂第2版, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2. メジカルビュー社, 2015. 中村春基, 他編:レクリエーション改訂第2版 社会参加を促す治療的レクリエーション.三輪書店, 2004.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、紙細工(講義およびグループワーク)			レポート作成(紙細工)		
	2	紙細工(グループワーク)、タイルモザイク(グループワーク)			レポート作成(紙細工)		
	3	タイルモザイク(グループワーク)			レポート作成(タイルモザイク)		
	4	タイルモザイク(グループワーク)、マクラメ(グループワーク)			レポート作成(タイルモザイク・マクラメ)		
	5	マクラメ(グループワーク)			レポート作成(マクラメ)		
	6	革細工(講義およびグループワーク)			レポート作成(マクラメ・革細工)		
	7	革細工(グループワーク)			レポート作成(革細工)		
	8	エコクラフト(講義およびグループワーク)			レポート作成(革細工・エコクラフト)		
	9	エコクラフト(グループワーク)、今までのまとめ			レポート作成(エコクラフト)		
	10	レクリエーション(講義・グループワーク)			レクリエーション発表準備		
	11	レクリエーション(グループワーク)			レクリエーション発表準備		
	12	レクリエーション(グループワーク)			レクリエーション発表準備		
	13	レクリエーション(グループワーク)、レクリエーション(発表)			レクリエーション発表準備		
	14	レクリエーション(発表)			レポート作成		
15	全体のまとめ			レポート作成			
評価方法	(1)作業レポートを計5回、レクリエーション実施後のレポートを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				40%
	発表・レポート	○	○	○	○		60%
履修上の注意	* 授業内容の順番は変更及び前後する場合がある。						

科目名	作業療法概論						
科目名(英)	Introduction to Occupational therapy						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹中 祐二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	重症心身障害児施設において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	作業療法を概観し、その理念、定義、歴史、具体的実践を学び、医療福祉の中での作業療法の位置付けを知る。 具体的実践の内容に関してはOT学科教員のオムニバス方式で実施する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法の理念、歴史について説明できる	
	○	○				作業療法士が関わる領域や時期について説明できる	
	○	○				主な作業療法の領域における専門性について説明できる	
	○	○				作業療法士に求められる資質や適性について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:二木淑子、能登真一編:標準作業療法学 作業療法概論、第3版 医学書院 参考文献:長崎重信編:作業療法学ゴールドマスターテキスト、作業療法概論、改訂第2版、メジカルビュー社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	作業療法とは				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	作業療法の歴史				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	作業療法の歴史				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	評価学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	人間発達学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	発達障害の作業療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	地域作業療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	身体障害の作業療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	補装具、リハ関連機器				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	基礎作業学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	日常生活活動				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	高次脳障害の作業療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	老年年期障害の作業療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	精神障害の作業療法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎					20%
履修上の注意	授業内容の順番は変更する場合あり。施設見学(昼間半日)を1-2回ほど予定。						

科目名	義肢学						
科目名(英)	Prosthetics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	中島 大輔		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	義肢(義手、義足)についての適応、構造、その効果に関する知識のみならず、その作成に関わる制度やその調整方法を含めて、臨床での事例も紹介しながら学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				義肢の目的、機能や構造などの基礎的知識を理解することができる。	
	○	○				義肢の適応、位置づけや役割を理解することができる。	
	○	○				義肢における作業療法士の役割を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	義肢装具のチェックポイント(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	総論、制度			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	2	切断 切断・離断の医学的治療について			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	3	切断 上下肢切断の機能的特徴とリハビリテーション			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	4	義肢総論			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	5	義足 義足の構造と部品			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	6	義足 大腿義足			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	7	義足 下腿義足			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	8	義足 その他の義足			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	9	補装具、福祉サービス			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	10	義手 義手の構造と部品			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	11	義手 前腕義手			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	12	義手 上腕義手			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	13	義手 肩義手、筋電義手他			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	14	復習			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
15	定期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				40%
履修上の注意							